

# 中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた 17世紀の江戸の町屋における木材利用

鈴木伸哉

---

**要旨** 東京都中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種同定に基づき、17世紀の江戸の商業地の町屋跡における用材傾向の特徴を明らかにした。さらに、ここで見出された傾向を千代田区溜池遺跡の大名屋敷の長屋跡におけるものと比較し、この時期の町人地における木材消費の特徴と、土地利用の差異を超えた共通性を弁別した。504点の木製品にはヒノキとスギを中心としたヒノキ科の木材が多く、製作技法上の差異や用途の違いを超えて様々な製品に認められた。漆塗の挽物類にはトチノキやケヤキ、ブナ属を中心とした広葉樹がもっぱら用いられており、他の製品とは異なった用材選択が認められた。日本橋一丁目遺跡と溜池遺跡における大名屋敷の長屋との間では、17世紀の段階で全体の用材に共通する特徴が多く、異なる属性の土地においても木材の消費の様相には共通性が認められたことから、用材傾向には土地利用の差異を超えた一定の広がりがあることが推定された。

---

## はじめに

近世における木材利用についてはおもに史料に基づく研究の蓄積があり（所 1980, Totman 1989, 徳川林政史研究所 2012・2015など）、生産地における森林資源の状況の変化やそれに対応した森林政策、市場の形成、林業技術の変遷などが明らかにされている。とくに木材消費との関わりの観点では、江戸時代初期の城下町建設や交通路の整備といった土木事業に起因する全国的な森林資源の枯渇や、その後の伐木制限や植林による資源の回復、流通市場の発達による生産地の多様化などが指摘されている。遺跡出土資料に基づく研究では、墓地遺跡における木棺用材（鈴木・能城 2004・2006a）や町屋における土木・建築用材（鈴木・能城 2008）について検討がおこなわれており、都市における木材利用が当時の森林資源の状況や林政の影響を受けたことが推定されている。

一方、生活のさまざまな場面で用いられ、木材消費の相当な割合を占めたと想定される多様な木製品については、用材に着眼した研究は限られる。こうしたなか、松葉（1999）は都内の溜池遺跡と汐留遺跡、墨田区内の3遺跡から出土した木製品の樹種同定結果を比較検討し、藩邸や社家、旗本屋敷地など、遺跡の性格が多様であるにもかかわらずヒノキ科の樹種が多用されることや、用途ごとに樹種が近似することなどの共通の特徴を指摘している。そして遺跡間で樹種構成が近似するのは入手できる木材に制限があったためと推定している。こうした特徴については後

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

続の調査においても確認されており、一定の妥当性をもつものと見られる。しかしながらここで扱われている事例は17世紀から19世紀まで幅がある一方、資料的な制約から江戸時代のなかでの時間的な変遷については考慮されていない。

この論考の前後から、都内の近世遺跡においては細工町遺跡（能城 1992）や千駄ヶ谷五丁目遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社 1997）、行元寺跡（能城・三村 2003）、四谷二丁目遺跡（鈴木・能城 2006b）などで多数の資料の樹種同定がおこなわれるようになったが、膨大な出土数量に対して検討例は未だ十分とは言えず、とくに17世紀の様相については資料に乏しく、未解明の部分が多く残されている。

また、近世の城下町には家中屋敷や足軽町、町人地といった諸社会が、それぞれの身分にしたがって空間的に分節化して並立しており、なかでも巨大城下町においては大名藩邸や旗本屋敷、大寺院、大店、市場社会などの複数の「磁界」が存在し、それぞれが都市社会を部分的に編成・統合していたとされる（吉田 1999 とくに序章と終章）。木材消費がこうした都市社会の分節化を反映したものであるのか、あるいはこうした区分を超えた共通性をもつものであるのかは、武家地・町人地といった区分に加え、江戸城の郭内・外といった地域的差異や、大店層・店借層といった土地利用者の差異を考慮した検討が行われる必要がある。

このような観点に立ち、本研究では江戸城の郭内に位置し、江戸の商業の中心地であった日本橋地域の町屋跡から出土した木製品を対象にその樹種を同定し、17世紀のこの地域における木材利用の傾向を明らかにする。さらに、ここで見出された傾向を他の性格の遺跡、とくに大名屋敷におけるものと比較することにより、この時期の町人地における木材消費の特徴と、土地利用の差異を超えた共通性を弁別することを目的とする。

## 調査対象地

調査地点である日本橋一丁目遺跡は、東京都中央区日本橋一丁目4番および6番に所在する（第1図）。当該地は江戸時代を通じて万町という町屋であり、問屋の集中する商業地であった。調査地点は明治6年（1873）の沽券図の四～六番に該当するが、居住者の詳細は明らかではない（日本橋一丁目遺跡調査会 2003）。2000年12月～2001年7月にかけて1,022㎡を対象におこなわれた発掘調査により、この万町の町屋跡に比定される遺跡が発掘された。標高T.P. +0.5～4m前後までの間に15の



第1図 中央区日本橋一丁目遺跡の位置  
地形図は国土地理院数値地図50000を使用

生活面が確認され、そこから544基の遺構が検出された。これらの遺構の内外から陶磁器・土器類や木製品などの多数の遺物が出土した。各遺構の帰属する生活面の層位的な位置づけは日本橋一丁目遺跡調査会（2003）に、各生活面の存続した年代は仲光（2006）に示されている（第1表）。それぞれの生活面は江戸時代のはじめ頃から大正12年（1923）の関東大震災による廃絶までの約330年の間に位置づけられる。

## 資料と方法

日本橋一丁目遺跡から出土した木製品には遺構内からのもの3,963点、遺構外からのもの1,301点の、合計5,264点あり、このうちの504点を対象とした。これらは前述の15の生活面に帰属する遺構内や、各生活面の覆土内から出土したものであり、江戸時代のはじめ頃以降、大正12年（1923）以前に比定される。このうち16世紀末から17世紀代のものは441点で、18世紀以降のものは62点である。なお、遺構構成材の樹種については植田（2003）および鈴木・能城（2008）において報告されているが、木製品については本稿で新たに報告するものである。

対象とした木製品の器種には次のようなものがある（第2・3図）。

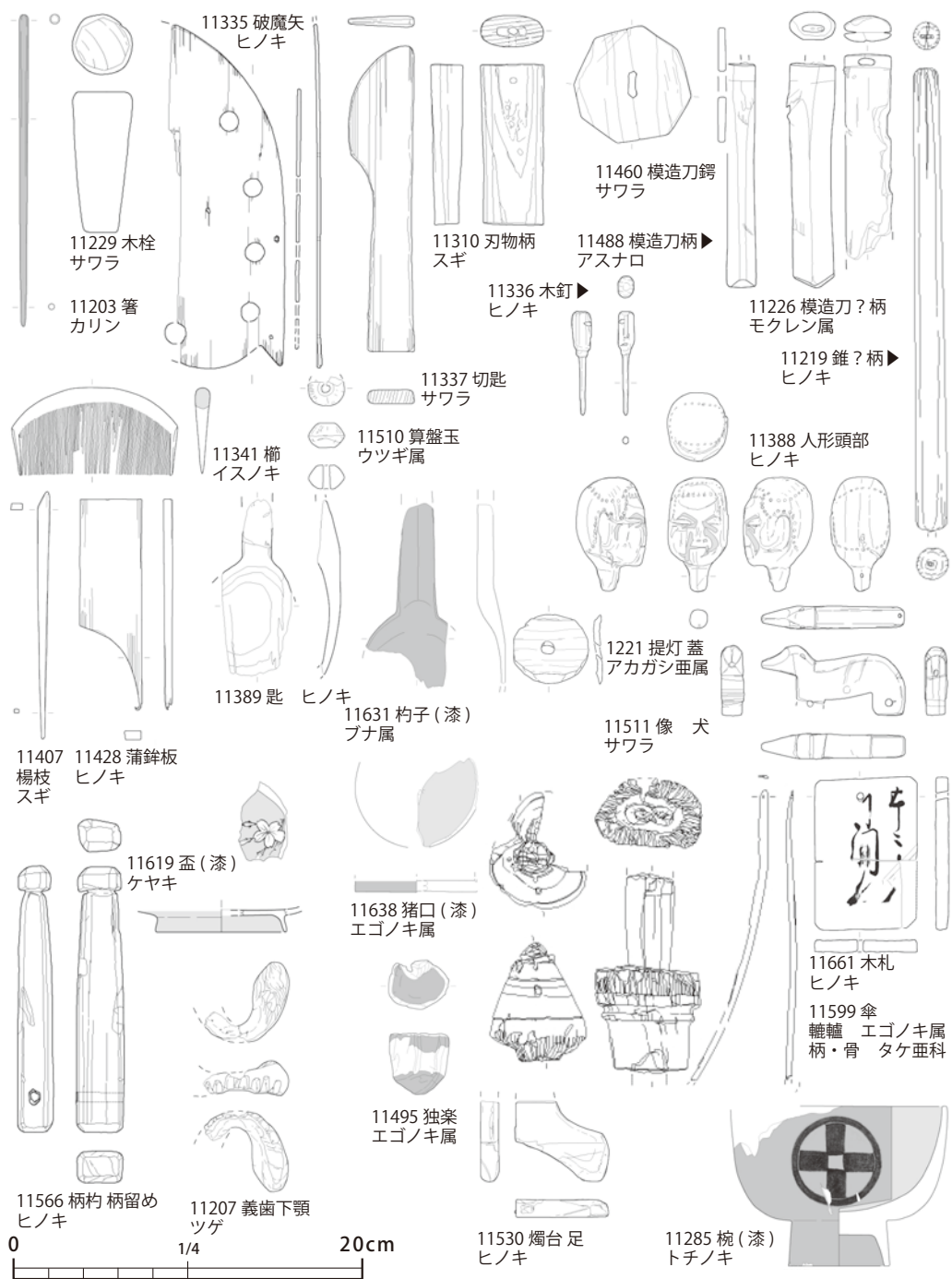
- ・ 桶・樽といった結い物と、曲物やそれを用いた柄杓
- ・ 折敷や膳、重箱、箱、櫃、枕といった指物
- ・ 椀やその蓋、皿、盃、猪口といった挽物の容器類
- ・ 盆・器台や蓋物、杓子、箸、蒲鉾板、切匙、匙、楊枝、搦粉木、釜蓋といった調理・食事に関する製品
- ・ 下駄や、櫛、義歯、傘といった装身具やそれに類する製品
- ・ 筆や算盤（玉）、竹定規といった文具や、木札
- ・ 刃物や刀子、刷毛、錐、砥石（台）、墨壺といった工具や、鋤などの農具類
- ・ 木札や人形、像、模造刀、独楽、羽子板といった日用品・遊戯具類
- ・ 燭台や提灯、灯明具といった灯火具
- ・ （鉦を叩く）撞木、杵、破魔矢といった神仏・信仰に関連する製品
- ・ 建材の一部や木釘といった製品

これらの木製品の遺物番号や出土地点、器種は

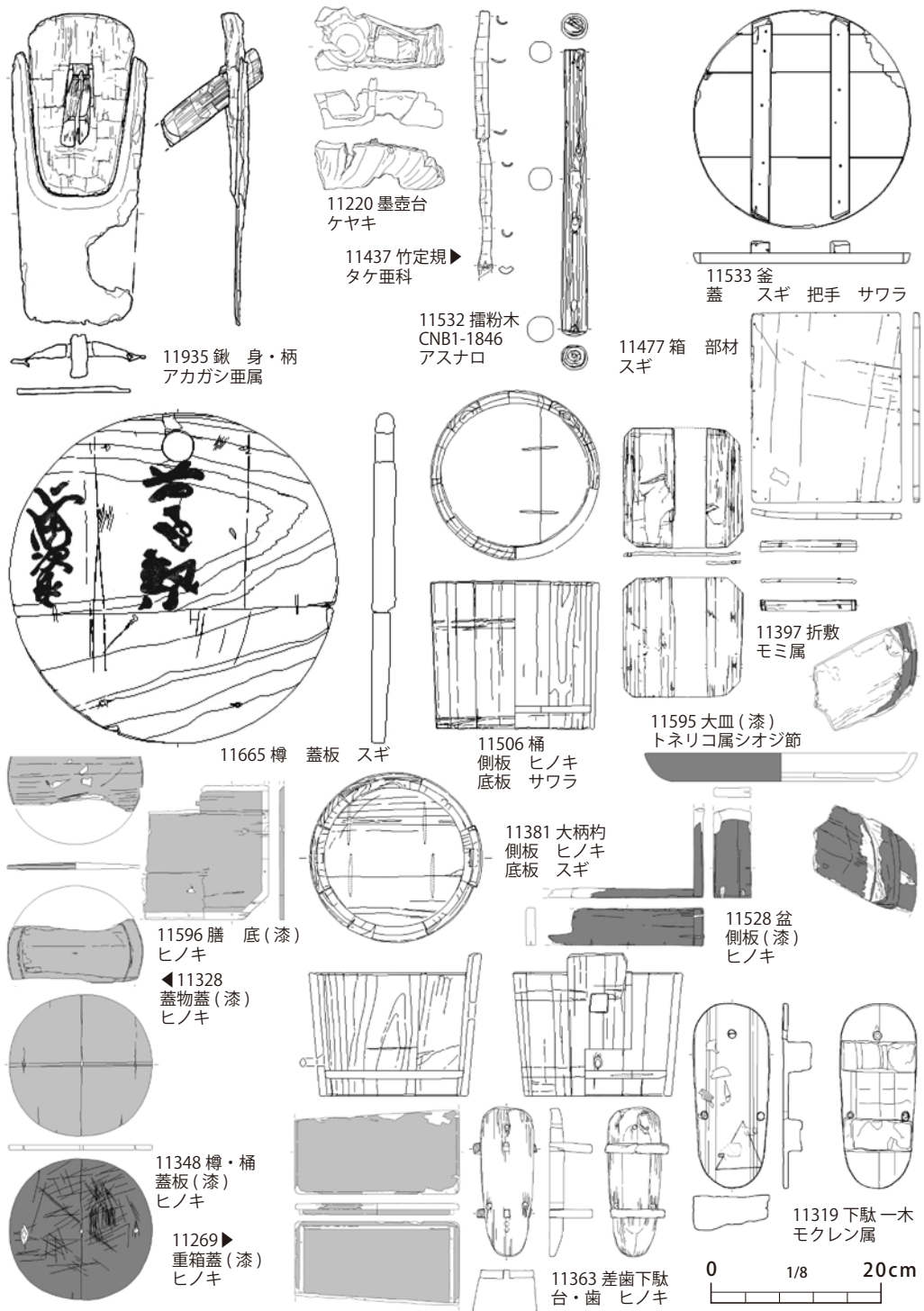
第1表 中央区日本橋一丁目遺跡の各生活面の年代と、分析対象資料数

年代	生活面	資料点数
大正12年（1923）廃絶	1上	4
1820-60年代頃	1	11
1780-1830年代頃	2	3
—	2・3	1
1770年代頃	3	15
明和9年（1772）廃絶	4	6
1750-60年代頃	5	4
1740-60年代頃	6	7
—	6・7	1
1700-30年代頃	7	10
1680-1710年代頃	8	26
1680年代頃	9	2
—	9・10	5
1670年代頃	10	5
1660年代頃	11	31
明暦3年（1657）廃絶	12	114
—	12・13	3
1630-40年代頃	13	173
1590-1620年代頃	14	82
—	—	1

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）



第2図 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品 (1) 註1をもとに作成



第3図 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品 (2) 註1をもとに作成



中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

中央区郷土天文館収蔵品アーカイブス<sup>(1)</sup>に拠ったが、一部の器種については異なる名称を与えた（たとえば11220置物台座を墨壺に、11334光背形木製品を破魔矢に、11502不明木製品を撞木に改めた）。

樹種同定は木材切片のプレパラート観察によりおこなった。プレパラートには遺構構成材からの連番でCNB 1-2001～2504の標本番号を付した。

## 結果

### 出土樹種の記載

504点の木製品のうちには、針葉樹9分類群、広葉樹23分類群と単子葉類1分類群の、合計33分類群が認められた。これらの樹種の木材解剖学的な記載をし、同定の根拠を明らかにする（第4～5図）。

#### モミ属 *Abies* マツ科（写真：CNB 1-2285）

垂直・水平樹脂道のいずれをも欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は量多く明瞭。仮道管の内壁にらせん肥厚は認められない。放射組織は柔細胞のみからなり、壁は厚く、垂直壁はじゅう状末端壁。分野壁孔はごく小型のスギ型で、1分野に1～4個。

#### トウヒ属 *Picea* マツ科（写真：CNB 1-2493）

垂直・水平樹脂道をもつ針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は量多く明瞭。仮道管の内壁にらせん肥厚は認められない。放射組織の上下端には放射仮道管があり、有縁壁孔の壁孔縁は角張る。柔細胞の垂直壁はじゅう状末端壁。分野壁孔はごく小型のトウヒ型で、1分野に2～4個。

#### アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科（写真：CNB 1-2003）

垂直・水平樹脂道をもつ針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材は量多く明瞭。放射仮道管の水平壁には著しい鋸歯状の突起がある。分野壁孔は大型の窓状で、1分野にふつう1個。

#### ツガ属 *Tsuga* マツ科（写真：CNB 1-2179）

垂直・水平樹脂道のいずれをも欠く針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材は量多く明瞭。仮道管の内壁にらせん肥厚は認められない。放射組織の上下端には放射仮道管があり、柔細胞の垂直壁はじゅう状末端壁。分野壁孔はごく小型のトウヒ型で、1分野に1～4個。

#### ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科（写真：CNB 1-2298）

垂直・水平樹脂道のいずれをも欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材はごく少ない。樹脂細胞が早材の終わりから晩材にかけて接線方向に散在する。仮道管の内壁にらせん肥厚は認められない。分野壁孔は中型で孔口が縦に開くトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2～3個。

#### サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科（写真：CNB 1-2343）

ヒノキに似る針葉樹材。晩材は少ない。分野壁孔はやや大きく孔口が斜めに開くヒノキ型～スギ型で、1分野に2～3個。

**スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 (写真: CNB 1-2097)**

ヒノキに似る針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は量多く明瞭。分野壁孔は大型で孔口が水平に開くスギ型で、1分野に1～2個。

**ネズコ *Thuja standishii* (Gordon) Carrière ヒノキ科 (写真: CNB 1-2177)**

ヒノキに似る針葉樹材。晩材は比較的多い。分野壁孔は中型のスギ型で、1分野に2～3個。

**アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 (写真: CNB 1-2386)**

ヒノキに似る針葉樹材。晩材は比較的多い。放射柔細胞は樹脂を多く含む。分野壁孔は小さく孔口が斜めに開くヒノキ型～スギ型で、1分野に3～5個。アスナロとその変種のヒバ、ヒノキアスナロ *T. dolabrata* var. *hondai* は木材構造からは区別できないので、アスナロと統一して表記する。

**モクレン属 *Magnolia* モクレン科 (写真: CNB 1-2024)**

やや小型で薄壁の道管が単独あるいは放射方向に2～4個ほど複合して、ややまばらに散在する散孔材。道管の直径は年輪の終わりでやや減少する。道管の穿孔は単一。道管相互壁孔は階段状。放射組織はほぼ同性で、1～2細胞幅。

**タケ垂科 subfam. Bambusoideae イネ科 (写真: CNB 1-2437)**

厚壁の繊維細胞が木部と篩部を取り囲んで繊維束を形成し、それが散在して不斉中心柱をなす。木部では原生木部の小道管の左右外側に1対の大道管があり、篩部は原生木部の外方に位置する。

**ツゲ *Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Müll.Arg. ex Miq.) Rehder et E.H.Wils.**

**ツゲ科 (写真: CNB 1-2134)**

ごく小型でやや角張った厚壁の道管が単独で均一に散在する散孔材。道管の穿孔は10本ほどの横棒からなる階段状。木部柔組織は散在状～短接線状。放射組織は異性で1～2細胞幅で、ふつう2～4細胞高の単列の翼部をもつ。

**イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. マンサク科 (写真: CNB 1-2375)**

やや小型でやや厚壁の丸い道管が単独で均一に散在する散孔材。年輪界は不明瞭。道管の穿孔は数本の横棒からなる階段状。木部柔組織は接線状で、ときに大型の結晶をもつ。放射組織は異性で2細胞幅で、大きさが揃っている。

**カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. ex Hoffm. et Schult. カツラ科 (写真: CNB 1-2242)**

小型でやや丸い道管がほぼ単独で密に散在する散孔材。道管の穿孔は30本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は異性で2細胞幅くらい。

**カリン (マメ科) *Pterocarpus indicus* Willd. マメ科 (写真: CNB 1-2001)**

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

中型の道管が単独または2～3個放射方向に複合してまばらに散在する散孔材。道管の直径は成長輪内で緩やかに減少する。軸方向柔組織は連合翼状～帯状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性でほぼ単列で、層階状に配列する。

**ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 (写真: CNB 1-2069)**

大型で丸い道管が年輪のはじめに1列に並んで孔圏をなし、晩材では小型で薄壁の道管が集合して接線方向に連なる帯状に配列する環孔材。早材から晩材への移行は急。道管の穿孔は単一。小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1～2細胞が直立細胞からなる異性で、1～10細胞幅。しばしば上下端に大型の結晶をもつ。

**エノキ属 *Celtis* アサ科 (写真: CNB 1-2044)**

大型～中型で丸い道管が単独か2個複合して年輪のはじめに1～2列並び、晩材では徐々に径を減じた小道管が塊をなして斜めに連なる傾向をみせて配列する環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1～4細胞ほどが直立する異性で10細胞幅くらいとなり、不明瞭な鞘細胞をもつ。

**クワ属 *Morus* クワ科 (写真: CNB 1-2383)**

やや大型で丸い道管が単独または数個複合して年輪のはじめに数列集合し、晩材では徐々に径を減じた道管が丸い塊をなして斜めに連なる傾向をみせて散在する環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1～2細胞が直立する異性で10細胞幅くらい。

**クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 (写真: CNB 1-2472)**

ごく大型で丸い道管が年輪のはじめに1～3列ほど並んで孔圏をなし、晩材では小型で薄壁の道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔細胞は短接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

**ブナ属 *Fagus* ブナ科 (写真: CNB 1-2074)**

小型で丸い道管が単独あるいは2個複合して密に配列する散孔材。道管の直径は晩材にむけてやや減少する。木部柔組織は接線状あるいは短接線状。道管の穿孔は単一または階段状。放射組織は単列同性のものに、大型の複合放射組織が混在する。

**アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 (写真: CNB 1-2382)**

中型で丸いや厚壁の道管が単独で1～3列幅の帯をなして放射方向に配列する散孔材（放射孔材）。木部柔組織はいびつな接線状から2～3細胞幅の帯状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列の小型のものと複合状で大型のものとからなる。

**ハンノキ属ハンノキ節 *Alnus* sect. *Gymnothyrsus* カバノキ科 (写真: CNB 1-2435)**

中型～小型の道管が単独あるいは放射方向に数個複合して散在する散孔材。道管の穿孔は20本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は同性で、単列のものと集合状のものとがあり、集合放射組織の出現は多い。



**カバノキ属 *Betula* カバノキ科 (写真: CNB 1-2463)**

中型で丸い道管が単独あるいは放射方向に数個複合してまばらに散在する散孔材。道管の穿孔は10~20本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は同性で1~4細胞幅程度。

**カエデ属 *Acer* ムクロジ科 (写真: CNB 1-2035)**

やや小形で丸い道管がほぼ単独でまばらに散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で1~4細胞幅。

**トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科 (写真: CNB 1-2049)**

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2~3個複合して散在する散孔材。道管の密度は晩材でやや低くなる。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性で層階状構造。

**キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 (写真: CNB 1-2036)**

大型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して年輪のはじめに2~3列配列し、晩材では急に径を減じた薄壁の道管が接線方向に帯をなして集合する環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚があり、道管内にはしばしば黒褐色の物質が詰まる。放射組織は同性で、4~5細胞幅。

**ウツギ属 *Deutzia* アジサイ科 (写真: CNB 1-2324)**

ごく小型で角張った道管が単独でまばらに散在する散孔材。道管の穿孔は数十本の横棒からなる階段状。放射組織は異性で背が高く、単列のものは直立細胞のみからなり、多列のものは4~6細胞幅くらいで鞘細胞をもつ。

**エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 (写真: CNB 1-2425)**

やや小型で丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合してまばらに散在し、晩材では小径で厚壁の道管が放射方向に数個複合して散在する散孔材。木部柔組織は晩材で接線状。道管の穿孔は数~10本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は異性で1~3細胞幅。

**トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 (写真: CNB 1-2475)**

大型で丸い厚壁の道管が年輪のはじめに1~2列ほど密に並んで孔圏をなし、晩材では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2~3個複合してまばらに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で1~2細胞幅。

**ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai, excl. typo ウコギ科 (写真: CNB 1-2039)**

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、そこから急速に直径を減じた小道管が晩材部では接線方向の帯状に集合して配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で5細胞幅くらいで、上下端の1細胞が直立する。

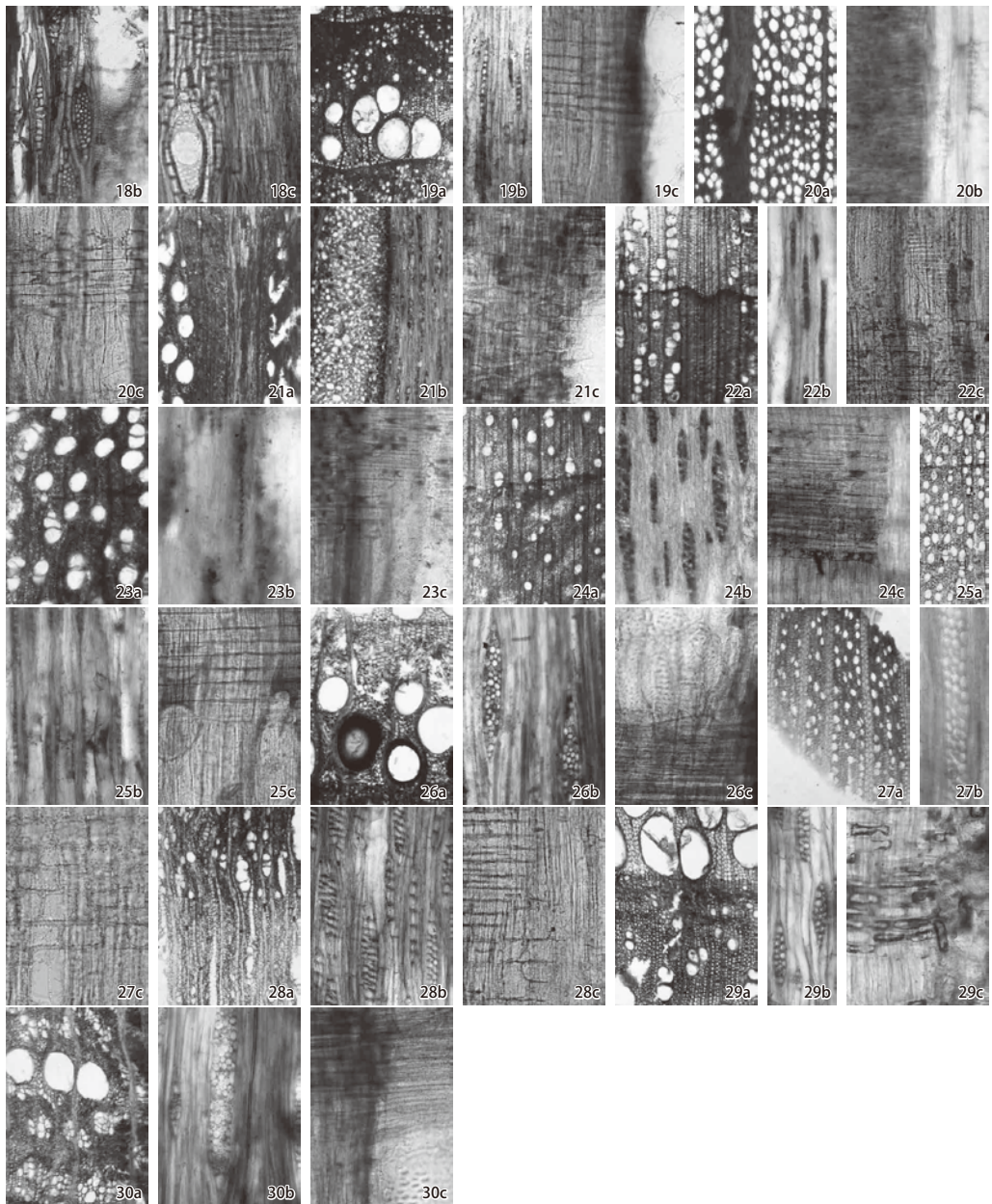
個別の製品ごとの同定結果は第2表に、器種ごとの樹種組成は17世紀と18世紀以降とに分けて第3表に示した。



第4図 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の顕微鏡写真（1）

1：モミ属，2：トウヒ属，3：アカマツ，4：ツガ属，5：ヒノキ，6：サワラ，7：スギ，8：ネズコ，  
9：アスナロ，10：モクレン属，11：タケ亜科，12：ツゲ，13：イスノキ，14：カツラ，15：カリン，  
16：ケヤキ，17：エノキ属，18：クワ属，  
a（横断面）×20，b（接線断面）×50，c（放射断面）×100.（1c-9c：×200）





第5図 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の顕微鏡写真(2)

18: クワ属, 19: クリ, 20: ブナ属, 21: アカガシ亜属, 22: ハンノキ属ハンノキ節, 23: カバノキ属,  
24: カエデ属, 25: トチノキ, 26: キハダ, 27: ウツギ属, 28: エゴノキ属, 29: トネリコ属シオジ節,  
30: ハリギリ,

a (横断面) × 20, b (接線断面) × 50, c (放射断面) × 100.

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

第2表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種（1）

No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1	No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1
11203	213	2	箸			カリン	2001	11259	476	14	椀		漆	カツラ	2052
11204	213	2	曲物	底板		スギ	2002	11260	476	14	椀蓋		漆	ケヤキ	2053
11205	213	2	提灯	部材		アカマツ	2003	11265	13面	13	大皿		漆	シオジ節	2054
11207	277	1	義歯	下顎		ツゲ	2004	11266	13面	13	箱	側板	漆	ヒノキ	2055
11208	277	1	義歯	下顎		ツゲ	2005	11267	13面	13	箱	側板	漆	ヒノキ	2056
11209	277	1	義歯	上顎		ツゲ	2006	11268	13面	13	重箱	底板	漆	ヒノキ	2057
11210	277	1	義歯	上顎		ツゲ	2007	11269	13面	13	重箱	蓋	漆	ヒノキ	2058
11206	277	1	樽	側板		スギ	2008	11270	13面	13	箸		漆	ヒノキ	2059
11206	277	1	樽	側板		ヒノキ	2009	11271	13面	13	椀		漆	トチノキ	2060
11211	291	5	下駄	一木	漆	ヒノキ	2010	11272	13面	13	平椀		漆	ブナ属	2061
11212	291	5	砥石台			アカマツ	2011	11273	13面	13	盃		漆	ケヤキ	2062
11213	338	3	樽	蓋板		ヒノキ	2012	11274	424	12	椀		漆	モクレン属	2063
11214	338	3	樽	蓋板		スギ	2013	11275	424	12	椀		漆	モクレン属	2064
11215	338	3	砥石台			アスナロ	2014	11276	426	12	椀蓋		漆	トチノキ	2065
11216	338	3	砥石台			ヒノキ	2015	11277	426	12	椀蓋		漆	×	2066
11217	338	3	下駄	無眼		ハンノキ節	2016	11278	424	12	椀		漆	ケヤキ	2067
11218	338	3	下駄	無眼		ハンノキ節	2017	11280	13面	13	椀		漆	ハンノキ節	2068
11219	338	3	錐？	柄		ヒノキ	2018	11281	466	13	椀		漆	ケヤキ	2069
11220	338	3	墨壺	台		ケヤキ	2019	11282	466	13	椀		漆	ケヤキ	2070
11221	338	3	提灯	蓋		アカガシ亜属	2020	11283	466	13	椀		漆	ブナ属	2071
11222	338	3	提灯	蓋		アカガシ亜属	2021	11284	466	13	椀		漆	ブナ属	2072
11223	338	3	曲物	蓋		サワラ	2022	11285	5面	5	椀		漆	トチノキ	2073
11224	338	3	筆？	柄	漆	ヒノキ	2023	11286	489	14	椀		漆	ブナ属	2074
11226	176	4	模造刀？	柄		モクレン属	2024	11287	489	14	椀		漆	ケヤキ	2075
								11288	489	14	椀		漆	ケヤキ	2076
11227	176	4	膳	側板	漆	アスナロ	2025	11289	489	14	椀		漆	カツラ	2077
11228	254	4	木栓			アスナロ	2026	11290	489	14	椀		漆	×	2078
11229	255a	1	木栓			サワラ	2027	11291	489	14	椀		漆	ケヤキ	2079
11232	434	12	椀		漆	カバノキ属	2028	11292	469	11	模造刀	柄		スギ	2080
11234	423	12	椀蓋		漆	トチノキ	2029	11293	466	13	不明	車輪		ヒノキ	2081
11235	423	12	椀		漆	シオジ節	2030	11294	466	13	模造刀？	鐔？		スギ	2082
11236	423	12	椀蓋		漆	トチノキ	2031								
11239	494	14	椀		漆	シオジ節	2032	11295	466	13	櫃	蓋	漆	ヒノキ	2083
11240	494	14	椀		漆	ケヤキ	2033	11296	466	13	膳	足		ヒノキ	2084
11241	494	14	椀蓋		漆	ブナ属	2034	11297	466	13	膳	縁	漆	ヒノキ	2085
11242	494	14	椀蓋		漆	カエデ属	2035	11298	466	13	下駄	一木		アスナロ	2086
11243	494	14	椀		漆	キハダ	2036	11299	466	13	膳	足		ヒノキ	2087
11244	494	14	椀		漆	シオジ節	2037	11300	466	13	桶	側板	漆	ヒノキ	2088
11245	466	13	椀蓋		漆	カツラ	2038	11301	466	13	樽	底板		サワラ	2089
11246	466	13	椀		漆	ハリギリ	2039	11301	466	13	樽	側板		スギ	2090
11247	466	13	椀		漆	ケヤキ	2040	11302	466	13	曲物	蓋		モミ属	2091
11248	466	13	椀		漆	ケヤキ	2041	11303	466	13	曲物	蓋		サワラ	2092
11249	466	13	椀		漆	カツラ	2042	11304	466	13	曲物	底		ヒノキ	2093
11250	498	14	椀		漆	トチノキ	2043	11305	466	13	曲物	蓋？		ヒノキ	2094
11251	498	14	椀		漆	エノキ属	2044	11306	466	13	盆		漆	ヒノキ	2095
11252	498	14	椀		漆	ハリギリ	2045	11307	466	13	櫃	蓋	漆	ヒノキ	2096
11253	457	13	椀		漆	シオジ節	2046	11308	466	13	曲物	蓋		スギ	2097
11254	457	13	椀		漆	ブナ属	2047	11309	466	13	柄杓	柄		スギ	2098
11255	457	13	椀		漆	トチノキ	2048	11310	466	13	刃物	柄		スギ	2099
11256	457	13	椀		漆	トチノキ	2049	11311	466	13	下駄	一木		ヒノキ	2100
11257	476	14	小皿		漆	クリ	2050	11312	466	13	下駄	一木		モミ属	2101
11258	476	14	椀蓋		漆	ブナ属	2051	11313	466	13	下駄	一木		モクレン属	2102

第2表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種 (2)

No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1	No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1
11314	466	13	下駄	一木		カツラ	2103	11360	484	13	曲物	底		ヒノキ	2154
11315	466	13	下駄	一木		カツラ	2104	11361	484	13	膳	底	漆	ヒノキ	2155
11316	466	13	下駄	一木		カツラ	2105	11362	484	13	曲物	蓋		ヒノキ	2156
11317	466	13	下駄	草履下駄		モミ属	2106	11363	484	13	下駄	差歯台		ヒノキ	2157
								11363	484	13	下駄	差歯歯		ヒノキ	2158
11318	466	13	下駄	差歯台		シオジ節	2107	11363	484	13	下駄	差歯歯		ヒノキ	2159
11319	466	13	下駄	一木		モクレン属	2108	11364	484	13	下駄	一木		スギ	2160
11320	466	13	下駄	一木		カツラ	2109	11365	484	13	下駄	差歯台	漆	ヒノキ	2161
11321	466	13	下駄	一木		ヒノキ	2110	11365	484	13	下駄	差歯歯	漆	ヒノキ	2162
11322	467	13	下駄	一木		ヒノキ	2111	11366	484	13	下駄	差歯台	漆	ヒノキ	2163
11323	468	13	下駄	一木		ヒノキ	2112	11366	484	13	下駄	差歯歯	漆	ヒノキ	2164
11324	469	11	下駄	一木		クリ	2113	11366	484	13	下駄	差歯歯	漆	ヒノキ	2165
11325	469	11	下駄	一木		ヒノキ	2114	11367	471	13	下駄	一木		スギ	2166
11326	469	11	下駄	差歯台		ヒノキ	2115	11368	471	13	下駄	一木		ヒノキ	2167
11326	469	11	下駄	差歯歯		ヒノキ	2116	11369	471	13	下駄	一木		ヒノキ	2168
11326	469	11	下駄	差歯歯		ヒノキ	2117	11370	470	1上	箱	蓋		スギ	2169
11327	469	11	樽	蓋板		ツガ属	2118	11371	477	13	枕		漆	ヒノキ	2170
11328	469	11	蓋物	蓋	漆	ヒノキ	2119	11372	473	13	器台	器台	漆	アスナロ	2171
11329	469	11	曲物	蓋		ヒノキ	2120	11373	474	11	曲物	底		スギ	2172
11330	469	11	独楽			スギ	2121	11374	474	11	曲物	蓋		ヒノキ	2173
11330	469	11	独楽			スギ	2122	11375	474	11	曲物	底	漆	ヒノキ	2174
11331	469	11	刃物	柄		サワラ	2123	11376	474	11	不明	部材		×	2175
11332	8面	8	下駄	一木		ヒノキ	2124	11377	476	14	曲物	蓋		サワラ	2176
11333	13面	13	下駄	一木		ヒノキ	2125	11378	476	14	曲物	底	漆	ネズコ	2177
11334	6-7面	6・7	篋?			モミ属	2126	11379	476	14	箱	側板		ヒノキ	2178
11335	12面	12	破魔矢	破魔矢		ヒノキ	2127	11380	476	14	箱	部材		ツガ属	2179
11336	12面	12	木釘			ヒノキ	2128	11381	476	14	大柄杓	側板		ヒノキ	2180
11337	9面	9	切匙			サワラ	2129	11381	476	14	大柄杓	底板		スギ	2181
11338	11面	11	刃物	柄		スギ	2130	11382	494	14	樽	蓋板		スギ	2182
11339	13面	13	下駄	一木		ヒノキ	2131	11383	494	14	膳	縁	漆	ヒノキ	2183
11340	12面	12	工具	柄		サワラ	2132	11384	494	14	膳	底板	漆	ヒノキ	2184
11341	10面	10	櫛			イスノキ	2133	11385	494	14	下駄	一木		ヒノキ	2185
11342	9面	9	櫛			ツゲ	2134	11386	494	14	下駄	一木	漆	ヒノキ	2186
11343	498	14	櫛			イスノキ	2135	11387	494	14	下駄	一木	漆	ヒノキ	2187
11344	498	14	櫛			散孔材	2136	11388	13面	13	人形	頭部		ヒノキ	2188
11345	490	12	不明	柄		ヒノキ	2137	11389	13面	13	匙			ヒノキ	2189
11346	490	12	提灯	底		ヒノキ	2138	11390	-	-	灯明具?	脚部		ヒノキ	2190
11347	497	14	曲物	底		ヒノキ	2139								
11348	498	14	樽・桶	蓋板	漆	ヒノキ	2140	11391	13面	13	椀蓋		漆	トチノキ	2191
11349	498	14	曲物	底		ヒノキ	2141	11392	13面	13	椀蓋		漆	トチノキ	2192
11350	498	14	曲物	蓋		ヒノキ	2142	11393	13面	13	下駄	一木	漆	ヒノキ	2193
11351	498	14	桶	側板		サワラ	2143	11394	14面	14	下駄	差歯台		シオジ節	2194
11352	498	14	下駄	一木		モクレン属	2144	11394	14面	14	下駄	差歯歯		シオジ節	2195
11353	489	14	下駄	差歯台		ヒノキ	2145	11395	13面	13	下駄	一木	漆	ヒノキ	2196
11353	489	14	下駄	差歯歯		ヒノキ	2146	11396	13面	13	工具	柄		ヒノキ	2197
11354	489	14	下駄	差歯台		シオジ節	2147	11397	13面	13	折敷			モミ属	2198
11354	489	14	下駄	差歯歯		シオジ節	2148	11398	13面	13	下駄	一木		スギ	2199
11355	479	14	下駄	一木		モクレン属	2149	11399	13面	13	羽子板			モミ属	2200
11356	484	13	不明	部材		ヒノキ	2150	11400	13面	13	人形	頭部		ヒノキ	2201
11357	484	13	不明	部材		ヒノキ	2151	11401	13面	13	切匙			ヒノキ	2202
11358	484	13	膳?	脚		ヒノキ	2152	11402	13面	13	下駄	一木		ヒノキ	2203
11359	484	13	曲物	底		ヒノキ	2153	11403	13面	13	下駄	一木		ヒノキ	2204



中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

第2表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種（3）

No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1	No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1
11404	13面	13	下駄	差歯台		ヒノキ	2205	11451	462	11	樽	蓋板		スギ	2257
11404	13面	13	下駄	差歯歯		ヒノキ	2206	11452	453	13	樽	側板		サワラ	2258
11405	13面	13	人形	頭部		サワラ	2207	11452	453	13	樽	底板		ヒノキ	2259
11406	460	13	匙			サワラ	2208	11453	453	13	下駄	差歯台		ケヤキ	2260
11407	460	13	楊枝			スギ	2209	11454	453	13	下駄	一木		ヒノキ	2261
11408	460	13	箸			サワラ	2210	11455	453	13	下駄	差歯台		シオジ節	2262
11409	458	13	膳	足	漆	ヒノキ	2211	11455	453	13	下駄	差歯歯		シオジ節	2263
11410	465	12・13	曲物	底		ヒノキ	2212	11456	453	13	下駄	差歯台		ヒノキ	2264
11411	465	12・13	提灯	部材		アスナロ	2213	11456	453	13	下駄	差歯歯		ヒノキ	2265
11412	465	12・13	人形	胴部		スギ	2214	11456	453	13	下駄	差歯歯		ヒノキ	2266
11413	463	14	下駄	一木		ヒノキ	2215	11457	453	13	下駄	差歯台		ケヤキ	2267
11414	463	14	下駄	一木		モクレン属	2216	11458	453	13	下駄	一木		ヒノキ	2268
11415	463	14	下駄	一木	漆	ヒノキ	2217	11459	453	13	下駄	一木		ヒノキ	2269
11416	463	14	下駄	一木		モクレン属	2218	11460	453・458	13	模造刀	鐔		サワラ	2270
11417	463	14	碗蓋		漆	×	2219								
11418	463	14	羽子板			ヒノキ	2220	11461	453	13	曲物	側板		ヒノキ	2271
11419	463	14	膳	支え	漆	ヒノキ	2221	11461	453	13	曲物	底		ヒノキ	2272
11420	463	14	箸		漆	ヒノキ	2222	11462	453	13	切匙			サワラ	2273
11421	463	14	箸		漆	ヒノキ	2223	11463	453	13	桶	側板		スギ	2274
11422	463	14	楊枝			スギ	2224	11463	453	13	桶	底板		スギ	2275
11423	463	14	桶	側板		サワラ	2225	11464	453	13	曲物	蓋		スギ	2276
11423	463	14	桶	底板		サワラ	2226	11465	453	13	独楽			スギ	2277
11424	463	14	曲物	底		サワラ	2227	11466	453	13	蓋物	蓋		スギ	2278
11425	463	14	曲物	蓋		ヒノキ	2228	11467	453	13	曲物	底		ヒノキ	2279
11426	463	14	調度	部材	漆	スギ	2229	11468	453	13	部材			スギ	2280
11427	463	14	不明	部材		ヒノキ	2230	11469	453	13	箱			ヒノキ	2281
11428	463	14	蒲鉾板	蒲鉾板		ヒノキ	2231	11470	453	13	調度？	部材		ヒノキ	2282
11429	463	14	刃物	柄		ヒノキ	2232	11471	453	13	曲物	側板		ヒノキ	2283
11430	463	14	下駄	一木		ヒノキ	2233	11472	453	13	柄杓	柄		アスナロ	2284
11431	463	14	下駄	一木		ヒノキ	2234	11473	453	13	提灯	底		モミ属	2285
11432	463	14	下駄	一木		モミ属	2235	11474	453	13	部材			ヒノキ	2286
11433	463	14	下駄	一木		アスナロ	2236	11475	453	13	膳	脚		ヒノキ	2287
11434	463	14	下駄	一木		モミ属	2237	11476	453	13	箱	部材		ネズコ	2288
11435	463	14	下駄	一木		アカマツ	2238	11477	453	13	箱	部材		スギ	2289
11436	463	14	羽子板			アスナロ	2239	11478	453	13	膳	脚		ヒノキ	2290
11437	463	14	竹定規			タケ亜科	2240	11479	453	13	膳	脚		スギ	2291
11438	463	14	下駄	差歯台	漆	アスナロ	2241	11481	453	13	膳	脚		ヒノキ	2292
11438	463	14	下駄	差歯歯	漆	カツラ	2242	11482	453	13	膳	脚	漆	ヒノキ	2293
11439	462	11	下駄	差歯台	漆	ヒノキ	2243	11483	453	13	不明	部材	漆	ヒノキ	2294
11439	462	11	下駄	差歯歯	漆	カツラ	2244	11484	444	8	曲物	底		ヒノキ	2295
11440	455	13	刷毛	刷毛	漆	ヒノキ	2245	11485	444	8	曲物	底		スギ	2296
11441	455	13	曲物	蓋		スギ	2246	11486	444	8	曲物	蓋		ヒノキ	2297
11442	455	13	木栓			サワラ	2247	11487	448	9・10	樽	蓋板	漆	ヒノキ	2298
11443	455	13	木栓			サワラ	2248	11488	448	9・10	模造刀	柄		アスナロ	2299
11444	455	13	木栓			スギ	2249	11489	448	9・10	建材			ヒノキ	2300
11445	455	13	木栓			サワラ	2250	11490	450	12	櫛			ツゲ	2301
11446	455	13	木栓			ヒノキ	2251	11491	450	12	曲物	蓋		スギ	2302
11447	455	13	下駄	差歯台		ケヤキ	2252	11492	444	8	下駄	一木		クリ	2303
11447	455	13	下駄	差歯歯		ケヤキ	2253	11493	446	12	不明	部材		ヒノキ	2304
11448	455	13	下駄	一木		アスナロ	2254	11494	446	12	模造刀	柄		アスナロ	2305
11449	455	13	下駄	一木		ヒノキ	2255	11495	446	12	独楽			エゴノキ属	2306
11450	455	13	下駄	一木		ヒノキ	2256	11496	446	12	模造刀	鞘		ヒノキ	2307

第2表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種 (4)

No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1	No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1
11497	444	8	曲物	底		スギ	2308	11542	429	9・10	盆	手	漆	ヒノキ	2360
11498	444	8	膳	縁	漆	アスナロ	2309	11543	429	9・10	膳	側板	漆	ヒノキ	2361
11499	444	8	箱	部材		ヒノキ	2310	11544	426	12	柄杓	柄		ヒノキ	2362
11500	442	12	下駄	差歯台		ケヤキ	2311	11544	426	12	柄杓	底板		ヒノキ	2363
11500	442	12	下駄	差歯歯		ケヤキ	2312	11545	426	12	灯明具?	脚部		ヒノキ	2364
11501	444	8	下駄	差歯台		アスナロ	2313								
11502	442	12	撞木	身		サワラ	2314	11546	426	12	箱	側板		ヒノキ	2365
11502	442	12	撞木	柄		スギ	2315	11546	426	12	箱	底板		ヒノキ	2366
11503	442	12	撞木			スギ	2316	11547	426	12	部材			ヒノキ	2367
11504	440	12	人形	頭部		ヒノキ	2317	11548	426	12	提灯	部材		スギ	2368
11505	436	12	椀		漆	トチノキ	2318	11549	426	12	提灯	部材		アカガシ亜属	2369
11506	444	8	桶	側板		ヒノキ	2319	11550	426	12	曲物	蓋		ヒノキ	2370
11506	444	8	桶	底板		サワラ	2320	11551	426	12	曲物	側板		ヒノキ	2371
11507	442	12	人形			スギ	2321	11551	426	12	曲物	底		ヒノキ	2372
11508	442	12	膳	縁	漆	ヒノキ	2322	11553	426	12	箸		漆	ヒノキ	2373
11509	436	12	人形	頭部		スギ	2323	11554	431	8	刃物	柄		ヒノキ	2374
11510	444	8	算盤玉			ウツギ属	2324	11555	430	11	櫛			イスノキ	2375
11511	444	8	像	犬		サワラ	2325	11556	430	11	不明	把手	漆	アスナロ	2376
11512	444	8	楊枝			サワラ	2326	11557	424	12	下駄	差歯台		ヒノキ	2377
11513	436	12	樽	蓋板		スギ	2327	11557	424	12	下駄	差歯歯		ヒノキ	2378
11514	436	12	木栓			スギ	2328	11557	424	12	下駄	差歯歯		ヒノキ	2379
11515	436	12	木栓			ヒノキ	2329	11558	401	6	柄杓	底板		ヒノキ	2380
11516	436	12	木栓			サワラ	2330	11558	401	6	柄杓	側板		ヒノキ	2381
11517	436	12	木栓			サワラ	2331	11559	401	6	提灯?	部材		アカガシ亜属	2382
11518	436	12	木栓			スギ	2332	11560	423	12	不明	部材		クワ属	2383
11519	436	12	木栓			サワラ	2333	11561	423	12	建材			モミ属	2384
11520	436	12	木栓			サワラ	2334	11562	423	12	桶	側板		ヒノキ	2385
11521	436	12	独楽			ヒノキ科	2335	11563	416	7	膳	側板		アスナロ	2386
11522	436	12	曲物	底	漆	ヒノキ	2336	11564	416	7	樽	底板		スギ	2387
11523	436	12	不明	部材		ヒノキ	2337	11565	416	7	膳	底		アスナロ	2388
11524	436	12	曲物	底		ヒノキ	2338	11566	421	12	柄杓	柄留め		ヒノキ	2389
11525	436	12	曲物	底		ヒノキ	2339	11567	413	8	不明			アスナロ	2390
11526	436	12	曲物	蓋		スギ	2340	11569	413	8	提灯	部材		アカガシ亜属	2391
11527	436	12	曲物	底		サワラ	2341	11570	418	10	樽	蓋板		スギ	2392
11528	436	12	盆	側板	漆	ヒノキ	2342	11571	418	10	膳	底		ヒノキ	2393
11529	436	12	切匙	切匙		サワラ	2343	11572	418	10	部材			モミ属	2394
11530	436	12	燭台	足		ヒノキ	2344	11573	418	10	調度	部材	漆	アスナロ	2395
11531	436	12	箱	箱		スギ	2345	11574	407	8	模造刀	柄		サワラ	2396
11532	436	12	播粉木			アスナロ	2346	11575	410	8	曲物	底		ヒノキ	2397
11533	436	12	釜	蓋		スギ	2347	11575	410	8	曲物	側板		ヒノキ	2398
11533	436	12	釜	把手		サワラ	2348	11576	423	12	重箱	側板	漆	ヒノキ	2399
11534	436	12	部材			スギ	2349	11577	423	12	膳?		漆	ヒノキ	2400
11535	436	12	部材			スギ	2350	11578	423	12	調度	部材	漆	アスナロ	2401
11536	436	12	樽	底板		スギ	2351	11579	423	12	膳	側板	漆	ヒノキ	2402
11537	424	12	桶	側板		スギ	2352	11580	423	12	曲物	底		ヒノキ	2403
11537	424	12	桶	底板		スギ	2353	11580	423	12	曲物	側板		ヒノキ	2404
11538	424	12	桶	底板		スギ	2354	11581	423	12	下駄	一木		スギ	2405
11538	424	12	桶	側板		スギ	2355	11582	423	12	下駄	一木		ヒノキ	2406
11538	424	12	桶	側板		スギ	2356	11583	423	12	下駄	差歯台		ケヤキ	2407
11539	424	12	部材			モミ属	2357	11584	369	6	箸		漆	タケ亜科	2408
11540	424	12	箱	箱		ヒノキ	2358	11585	387	7	提灯	部材		サワラ	2409
11541	424	12	樽	底板		スギ	2359	11586	353	6	下駄	一木		ヒノキ	2410

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

第2表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の樹種（5）

No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1	No.	遺構	面	器種	部位	漆	樹種	CNB1
11587	338	3	盆		漆	ネズコ	2411	11632	453	13	杓子		漆	ヒノキ	2459
11588	379	7	木栓			ヒノキ	2412	11633	453	13	重箱	底	漆	ヒノキ	2460
11589	423	12	下駄	一木		スギ	2413	11634	453	13	大皿		漆	ケヤキ	2461
11590	375	7	箱	側板		スギ	2414	11635	453	13	大皿		漆	トチノキ	2462
11591	423	12	柄杓	柄		ヒノキ	2415	11636	453	13	中皿		漆	カバノキ属	2463
11592	419	12	膳?	脚		ヒノキ	2416	11637	469	11	椀蓋		漆	トチノキ	2464
11593	416	7	樽	底板		スギ	2417	11638	466	13	猪口		漆	エゴノキ属	2465
11594	13面	13	櫃?	蓋	漆	サワラ	2418	11639	466	13	膳	側板	漆	ヒノキ	2466
11595	13面	13	大皿		漆	シオジ節	2419	11640	7面	7	椀蓋		漆	トチノキ	2467
11596	13面	13	膳	底	漆	ヒノキ	2420	-	4面	4	膳	側板	漆	ヒノキ	2468
11597	13面	13	曲物	蓋	漆	ヒノキ	2421	11641	4面	4	椀		漆	トチノキ	2469
11598	13面	13	器台	器台	漆	ヒノキ	2422	11642	467	13	椀		漆	ブナ属	2470
11599	462	11	傘	轆轤		エゴノキ属	2423	11643	463	14	椀蓋		漆	ケヤキ	2471
11600	462	11	傘	轆轤		エゴノキ属	2424	11644	463	14	椀		漆	クリ	2472
11599	462	11	傘	轆轤		エゴノキ属	2425	11645	463	14	椀		漆	ケヤキ	2473
11599	462	11	傘	柄		タケ亜科	2426	11646	463	14	椀蓋		漆	ニレ科	2474
11599	462	11	傘	骨		タケ亜科	2427	11647	463	14	椀		漆	シオジ節	2475
11601	436	12	大皿		漆	トチノキ	2428	11648	468	13	椀蓋		漆	ブナ属	2476
11602	436	12	大皿		漆	トチノキ	2429	11649	476	14	膳		漆	ヒノキ科	2477
11603	436	12	椀		漆	ブナ属	2430	11649	476	14	膳		漆	アスナロ	2478
11604	436	12	杓子		漆	ブナ属	2431	11650	462	11	椀蓋		漆	ブナ属	2479
11605	436	12	箱	底	漆	スギ	2432	11651	462	11	椀		漆	トチノキ	2480
11606	442	12	椀		漆	散孔材	2433	11652	463	14	杓子			クリ	2481
11607	434	12	椀		漆	トチノキ	2434	11653	68	1上	箱	箱		スギ	2482
11608	421	12	椀		漆	ハンノキ節	2435	11654	127	1上	樽	側板		スギ	2483
11609	421	12	椀		漆	ハンノキ節	2436	11655	287	1	木札			ヒノキ	2484
11610	373	7	箸		漆	タケ亜科	2437	11656	379	7	木札			ヒノキ	2485
11611	421	12	椀蓋		漆	トチノキ	2438	11657	423	12	樽	蓋板		サワラ	2486
11612	153	3	膳	脚	漆	ヒノキ	2439	11658	426	12	箱	蓋		スギ	2487
11613	176	4	像	猿		アスナロ	2440	11659	436	12	曲物	底		ヒノキ	2488
11614	286	2・3	椀		漆	ブナ属	2441	11660	444	8	木札			サワラ	2489
11615	255a	1	椀		漆	ケヤキ	2442	11661	453	13	木札			ヒノキ	2490
11616	419	12	椀		漆	ブナ属	2443	11662	474	11	木札?			モミ属	2491
11617	419	12	椀		漆	トチノキ	2444	11663	5面	5	曲物	蓋		スギ	2492
11618	413	8	椀蓋		漆	トチノキ	2445	11664	6面	6	曲物	蓋		トウヒ属	2493
11619	413	8	盃		漆	ケヤキ	2446	11665	12面	12	樽	蓋板		スギ	2494
11620	407	8	椀		漆	トチノキ	2447	11666	13面	13	曲物	底		ヒノキ	2495
11621	401	6	椀蓋		漆	ブナ属	2448	12325	277	1	義歯	上歯		ツゲ	2496
11622	444	8	椀		漆	トチノキ	2449	12326	338	3	櫛			サワラ	2497
11623	444	8	椀蓋		漆	トチノキ	2450	12327	424	12	羽子板			アスナロ	2498
11624	453	13	椀蓋		漆	ブナ属	2451	12328	445	12	人形	頭部		ヒノキ	2499
11625	453	13	椀		漆	ブナ属	2452	12292	314	1上	目薬瓶	蓋		不明	2500
11626	453	13	椀		漆	トチノキ	2453	11808	13	1	鉄	身		アカガシ亜属	2501
11627	453	13	椀		漆	トチノキ	2454	11935	426	12	鉄	身		アカガシ亜属	2502
11628	453	13	椀		漆	トチノキ	2455	11935	426	12	鉄	柄		アカガシ亜属	2503
11629	453	13	椀		漆	トチノキ	2456	12024	477	13	刀子			ヒノキ	2504
11630	453	13	椀		漆	トチノキ	2457	No.: 中央区郷土天文館収蔵品番号 (1), CNB1: 標本番号							
11631	453	13	杓子		漆	ブナ属	2458								

第3表 中央区日本橋一丁目遺跡から出土した木製品の器種ごとの樹種組成

器種	年代	樽・桶	曲物	柄杓	折敷・膳・箱	挽物・容器	盆・器台・蓋物	調理・食事具	下駄	義齒	櫛	文具・札	傘	工具	玩具	人形類	耕作具	神仏具	灯火具	部材
分類群 (c)	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18	17	18
モミ属	1				1				4		1			1	1			1		3
トウヒ属			1																	
アカマツ									1									1		
ツガ属	1				1															
ヒノキ科					(1)										1					
ヒノキ	4	(3)	2	29	(3)	4	2	14	(22)	(2)		(5)	3	(5)	38	(11)	1	(1)	1	1
サワラ	7		4	1					(1)				1		2	2		1	1	1
スギ	16	5	8	2	1	4	(1)	3				1		2	2	5	3	2	1	6
ネズコ				(1)		1			(1)											
アスナロ						1			(2)	(1)		(1)	1	4	(1)		1		1	(3)
モクレン属									6						1					
タケ亜科								(2)	(2)		1		2							
ツゲ										5	2									
イスノキ										3										
カツラ									4	(2)										
カリン									1											
ニレ科																				
ケヤキ										(1)				7						
エノキ属									(15)	(1)					1					
クワ属									(1)											
クリ									(2)					2						1
ブナ属									(14)	(2)										
アカガシ亜属																				
ハンノキ節																				
カバノキ属																				
カエデ属																				
トチノキ									(27)	(3)										
キハダ									(1)											
ウツギ属																				
エゴノキ属																				
シオジ節																				
ハリギリ																				
散孔材																				
同定不能																				
括弧内は漆塗製品の数 (外数)																				1

## 考察

樹種同定結果に基づき、以下では日本橋一丁目遺跡の木製品に認められる17世紀の日本橋地域の町屋における用材傾向を明らかにする。

### 全体的な用材傾向

同定をおこなった504点の資料のうち、針葉樹が305点と多くを占めた。このうちヒノキが187点と最も多くを占め、スギが69点、サワラが38点とこれに次ぎ、これらを中心としたヒノキ科の木材が多く製品に用いられていた（第3表）。ヒノキ科をはじめとする針葉樹を多用する傾向は17世紀に顕著であり、18世紀以降にも変化は認められない。こうした傾向は松葉（1999）の指摘とも調和的で、江戸の中心部の町人地では江戸時代初期～前半の段階において針葉樹材を用いた木製品が大量に消費されていたことが明らかとなった。

### 17世紀における器種ごとの用材傾向

次にそれぞれの器種に認められた17世紀の用材傾向についてまとめる。

樽・桶は17世紀の資料31点のうちスギが16点と多くを占め、サワラ、ヒノキがこれに次いだ。曲物は17世紀の資料45点のうちヒノキが32点と多くを占め、その他の樹種はわずかである。曲物やそれに類する柄杓も、ヒノキやスギを中心とした用材である。桶や樽、曲物といった器種の違いに対して樹種組成の差異は顕著ではない。ヒノキとサワラはヒバやクリとともに耐朽性（腐朽菌に対する抵抗性）が大きく、スギは中程度とされる（高橋 1992）。液体の運搬や食品類の保管に用いられることの多い樽や桶、曲物には耐朽性を考慮してこれらの樹種が選択されたものと見られるが、それぞれにおける使い分けは厳密ではない。

膳や重箱、箱や櫃といった指物の容器類はヒノキがほとんどを占め、スギがこれに次いだ。白木のものと漆塗のものとの間に顕著な用材の差異は認められない。ヒノキ材の通直で狂いの少ない特性が重視されたものと見られる。

漆塗の挽物容器類（椀、椀蓋、皿、盃）にはもっぱら広葉樹材が用いられていた。このうちトチノキが27点と最も多く用いられ、ケヤキとブナ属がこれに次ぎ、その他の製品とは異なる、一定のまとまりをもつ用材傾向が認められた。これは漆塗容器の木胎部の製作技法が轆轤引きによることなど、生産者（木地屋）の用材選択が他の職種のそれとは異なることに起因するものと見られ、漆塗の容器の用材でこれら3樹種が大半を占めるのは都内の近世遺跡における全体的な傾向（北野 2005）とも一致する。一方、トネリコ属シオジ節が7点とこれらに次いで多く認められるのははじめとして、カツラやハンノキ属ハンノキ節、カバノキ属、ハリギリ、カエデ属、キハダなど、比較的多くの樹種が認められる点が特徴的である。これらのうちシオジ節やハンノキ節、ハリギリは葛西城跡（鈴木・能城 2010）における中世後期の漆塗容器類にも認められるものであ



ることから、こうした用材選択の背景には中世の用材傾向が遺存していた可能性も考えられる。

箸や蒲鉾板、切匙、筥、楊枝などの、調理や食事に関連する製品にもヒノキ科の樹種が多用されていた。前述のように衛生面で耐朽性の高さが考慮されたものと見られるが、樹脂を多く含むアカマツなどのマツ科の一部の樹種を欠き、ヒノキ科のなかでも独特の強い芳香をもつアスナロが播粉木にしか認められないのは、食品や食事への影響が考慮されたためとも考え得る。

櫛にはイスノキが3点、ツゲが2点認められた。都内の近世遺跡の櫛の用材にはこれらの2種が多く、なかでもイスノキが大半を占める（伊東・山田 2012）。イスノキは日本産の有用木材のなかでは最も重硬で強度が大きく、櫛の主要な用材として知られている（平井 1996）。

傘の柄と骨にはタケ亜科が、轆轤にはエゴノキ属が用いられていた。エゴノキ属の木材は心材・辺材の区別がなく緻密で旋削加工が容易とされる（平井 1996）。これまで都内の近世遺跡から出土した傘の轆轤にはほぼ例外なくエゴノキ属が用いられており（伊東・山田 2012）、17世紀後半に位置付けられる本遺跡の例からは、こうした用材選択が同時期にはすでに確立されていたことがわかる。

下駄はヒノキが49点と大半を占めた他、ケヤキやトネリコ属シオジ節、モクレン属など比較的多くの樹種が用いられていた。下駄の形態には一木のものと差歯のものといった差異があるが、こうした違いと用材傾向との間の関連は不明瞭である。漆塗の施されたものにはヒノキが多く用いられている。

文具のうち、算盤玉にはウツギが用いられていた。ウツギの木材は髄の部分が乾燥すると中空になる性質があり、これを利用したものと見られるが、類例は少ない。

工具類にはヒノキ科が多く認められ、なかでもヒノキが多くの器種に用いられていた。

鍬の身や柄にはアカガシ亜属が用いられていた。鍬や鋤は東京都内の近世遺跡では出土例が少なく、用材が調べられたのは飯田町遺跡の鍬（高橋 1995）や溜池遺跡の鋤（鈴木・能城 2011）のみに留まるが、これらにはいずれもアカガシ亜属が用いられている。アカガシ亜属の木材は堅牢で強度が高く（平井 1996）、これを農具に用いる傾向は先史時代から日本列島の幅広い地域で認められている（伊東・山田 2012）。本例もそうした用材選択が踏襲されたものと見られる。

人形や動物の像にはヒノキをはじめとしたヒノキ科の樹種が多く用いられていた。これは加工や細工の容易さによるものと見られ、とくに微細な加工が施されたもの（No.11388など）にはヒノキが多用されている。玩具類にもヒノキ科の樹種が多く用いられ、模造刀にはサワラや、スギなどのヒノキ科の木材が多く用いられていた。

この他、調度類や灯火具、神仏具にもヒノキ科を中心とした針葉樹が多く用いられていたが、器種ごとの用材の使い分けは顕著ではない。提灯の部材にアカガシ亜属が多く用いられているのが特異であり、これらはいずれも円板状で中央に円形の孔が開くため提灯の蓋としたが、車輪などに用いられたものかも知れない。

以上のように、日本橋一丁目遺跡においける17世紀の木製品には、ヒノキとスギを中心として、

中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

サワラやアスナロ、ネズコといったヒノキ科の木材が多く用いられていた。これらの樹種は樽や桶といった結い物や、曲物、折敷や箱などの指物といった製作技法上の差異や、調理具や工具、玩具といった用途の違いを超えて様々な製品に認められた。こうしたことから、17世紀の江戸の商業の中心地の町人地においては、ヒノキ科の木材が多様な製品に加工され、大量に消費されていたことが考えられる。一方、漆塗の挽物類（漆器）にはトチノキやケヤキ、ブナ属を中心とした広葉樹がもっぱら用いられており、他の製品とは明らかに異なった用材選択が認められたが、これは生産・流通過程の差異によるものと推定された。

#### 大名屋敷における用材との比較 ―千代田区溜池遺跡の例―

日本橋一丁目遺跡における17世紀の用材傾向が認められたが、こうした傾向が町人地に特有のものであるのか、または土地利用の差異を超えて広がりをもつものであるのかを明らかにするため、町人地とともに江戸の土地利用の多くの割合を占める大名屋敷との比較をおこなう。その対象として、都内の大名屋敷跡の一例である千代田区溜池遺跡における用材傾向を取り上げる。

溜池遺跡は千代田区永田町二丁目に所在する江戸時代の遺跡で、二本松藩丹羽家の上屋敷の長屋にあたる範囲の発掘調査がおこなわれており、ここから出土した木製品・遺構構成材1,885点の樹種が同定されている（鈴木・能城 2011・鈴木 2015）。このうちの木製品1,666点の樹種組成を17世紀のものと18世紀以降のものに分けて示し（第4表）、大名屋敷の長屋における用材傾向の例として、日本橋一丁目遺跡のそれと比較する。

溜池遺跡における全体的な用材傾向は日本橋一丁目遺跡と同様に、樽・桶といった結い物や、曲物、指物などにヒノキやスギを中心としたヒノキ科の木材が多用され、他にモミ属やツガ属といった針葉樹が散点的に用いられていた。コウヤマキやトガサワラといった、分布域が限られる樹種も認められるが、ごくわずかである。調理・食事具や文具・札、工具、玩具・人形類やその他の部材といった用途の異なる製品においても同様に、ヒノキ科の木材が多く用いられている。

櫛にイスノキが、傘の轆轤にエゴノキ属が用いられているのは、日本橋一丁目遺跡とも共通する。

挽物容器は17世紀の資料431点のうち、トチノキが211点、ブナ属が157点、ケヤキが28点と、これら3樹種が大半を占めた。こうした傾向は日本橋一丁目遺跡とも共通するが、ブナ属がケヤキに対して多くを占める点が異なる。挽物容器にはこの他に8分類群が認められたが、このうち4分類群は日本橋一丁目遺跡と共通し、これ以外にはサクラ属やコナラ節、サワグルミ、コシアブラなどがわずかに見出されたにとどまる。

下駄の用材は321点のうちヒノキが110点で最も多く、ケヤキが78点、クリが62点でこれに次ぐ。この他に14分類群71点が認められ、このうち日本橋一丁目遺跡で確認されているのは8分類群52点であった。

このように、江戸の中心地の町屋である日本橋一丁目遺跡と、溜池遺跡における大名屋敷の長

第4表 千代田区溜池遺跡から出土した木製品の器種ごとの樹種組成 (鈴木・能城 2010, 鈴木 2015より作成)

器種	年代	樽・桶	曲物・柄杓	折敷・膳・箱	挽物容器	盆・器台・蓋物	調理・食器具	下駄	櫛	文具・札	傘	工具	玩具・人形類	耕作具	神具	灯火具	部材	他
分類群 (c)	17	18-	17	18-	17	18-	17	18-	17	18-	17	18-	17	18-	18-	17	18-	17
モミ亜科	1																	
モミ属	4	(1)	2	2		1	1	1	9	1	7	1	1				7	(1) 5 (1)
カラマツ								1										
トウヒ属	1		5	(1)	3				2	1							4	
複維管束亜属																		
アカマツ						1			3	1	1	6	1			1	3	(1)
単維管束亜属									1								1	
トガサワラ							1		6	1			2	1	1	2	2	
ツガ属	3						(1)					(1)						
コウヤマキ									1				1				(1)	
ヒノキ科																		
ヒノキ	3	5	17	(9) 8 (6)	9 (13) 1 (27)	1 (2) 1 (3)	4 (2) 6	107 (3) 10		3	4	18 (2) 5	5	2	(1)	1	11 (4) 6	1
サワラ			3	(1) (1)				2				4	1			7	(2) 1	
スギ	2	70 (1)	2	4 (1) 4 (1) 4		3	4	2	10	6	2	7	1	(1)		10 (1) 15 (2)		
アスナロ	6			1 (2) 1 (1) 1 (2)		2	1	1 (1)	11 (2) 2		1	1	6	2		1	(1) 2 (1)	
カヤ																		
モクレン属									8	(1) 3		1					(2)	4
タケ亜科																		
ツゲ																		
イスノキ									1 (1)									
カツラ									5 (1) 1 (4)									
イヌエンジュ																	(1)	
カリン																		
ケヤキ									78	5								
エノキ属									1								1	
ナシ亜科																		
サクラ属									62	11 (1)		1					1	(2)
クリ									(3) (3)									
ブナ属									2									
ツブラジイ																		
アカガシ亜属									3	3 (1)		1				1		
コナラ節																		
オニグルミ									1									
サワグルミ																	1	
ハンノキ属									1	1								
ハンノキ節																		
カバノキ属																		
トチノキ									1								(1)	
ミズキ																		
サカキ																		
アサガラ属																		
エゴノキ属																		
シオジ節																		
トネリコ節									5	(3) 16 (2)	1							
キリ									1									
コシアブラ																		
ハリギリ																		
散孔材	1	(2) (4)																
括弧内は漆塗製品の数 (外数)																	2	2

屋との間では、17世紀の段階で全体の用材に共通する特徴が多く、異なる属性の土地においても木材の使用（消費）の様相には共通性が存在したことが明らかとなった。一方、漆塗の挽物容器や下駄の用材では、その組成や、稀に用いられる樹種に差異が認められるものの、主要な樹種は共通している。17世紀の江戸では全国市場の確立を背景として、後の時期に続く都市空間が確立したとされるが（吉田 2015 第1章）、用材傾向には土地利用の差異を超えた一定の広がりがあったことが考えられる。こうした共通性は製作技法や用途の異なる多様な製品に認められることから、17世紀の段階では流通・消費の過程における用材選択の幅は広くはなく、スギやヒノキといった限られた樹種が多様な製品へと加工され、集中的に消費されたものと推定される。

## まとめ

以上のように日本橋一丁目遺跡における17世紀の木製品の用材傾向には、漆塗の挽物容器類を除くさまざまな製品にヒノキやスギ、サワラなどの、広義のヒノキ科を中心とした針葉樹が用いられた点に特徴があり、これは溜池遺跡の大名屋敷の長屋とも共通するものであった。一部の製品には用材傾向に差異が認められたが、こうした使い分けは必ずしも厳密なものではなく、樹種組成の多寡に読み取ることができる程度の緩やかなものであった。

一方、傘の轆轤<sup>ろくろ</sup>にエゴノキ属、櫛にイスノキやツゲ、鋏にアカガシ亜属、人形の頭にヒノキが選択されるように、限られた樹種が特定の用途（器種）と結びつく傾向も認められた。こうした用材選択は都内の18世紀以降の近世遺跡においてこれまでに確認されたものと多くが共通する。このうち傘の轆轤<sup>ろくろ</sup>や櫛、人形の頭は製作に緻密さが求められ、専門的な技術をもった職人による生産が想定されるものである。これらの製品には特定の樹種がその特徴が吟味された上で排他的に選択されており、木材の特性に関する知識に基づいた適材選択が17世紀の段階でおこなわれていたことを窺い知ることができる。

江戸の商業の中心地である日本橋の町屋においては、17世紀の段階ですでに、針葉樹の大量消費や、専門的な製作技術と結びついた用材選択といった、その後の時期にもつながる都市的な消費の様相を見て取ることができたが、その選択の幅は限定的で、当時の流通・消費の発展段階を反映したものであった。また、こうした様相は大名屋敷の長屋におけるものとも共通し、一定の広がりを持つことが想定された。今後、江戸において同じく土地利用の一角を占める旗本・御家人屋敷や寺社地といった遺跡における用材傾向との比較によって、同時期の江戸の木材利用の全体像を明らかにしていくことが求められる。

## 謝辞

本研究をおこなうにあたり、能城修一氏（明治大学）には樹種同定において多大なご教示を賜った。仲光克顕氏（中央区教育委員会）には貴重な資料を分析する機会を賜った。記して御礼申し上げる。

## 註

- (1) 収藏品アーカイブズ（中央区郷土天文館webページ）

<https://www.chuo-museum.jp/webmuseum/html/top.html>

## 引用文献

- 伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社
- 植田弥生 2003 「日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種同定」『東京都中央区日本橋一丁目遺跡』日本橋一丁目遺跡調査会
- 北野信彦 2005 『近世出土漆器の研究』吉川弘文館
- 鈴木伸哉 2015 「千代田区溜池遺跡衆議院議員会館地点から出土した江戸時代の木製品の樹種」『研究論集』29 東京都埋蔵文化財センター
- 鈴木伸哉・能城修一 2004 「東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」『植生史研究』12巻第2号
- 鈴木伸哉・能城修一 2006a 「東京都新宿区崇源寺・正見寺跡から出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」『植生史研究』14巻第2号
- 鈴木伸哉・能城修一 2006b 「新宿区四谷二丁目遺跡2次調査地点より出土した木製品の樹種」『東京都新宿区四谷二丁目遺跡II』新宿区教育委員会
- 鈴木伸哉・能城修一 2008 「東京都中央区日本橋一丁目遺跡出土木材からみた江戸の町屋における土木・建築用材の変遷とその背景」『植生史研究』16巻第2号
- 鈴木伸哉・能城修一 2010 「上千葉遺跡・葛西城址より出土した中世～近世の木製品 樹種」『平成20年度葛飾区埋蔵文化財調査年報』葛飾区教育委員会
- 鈴木伸哉・能城修一 2011 「溜池遺跡衆議院新議員会館地点から出土した木製品の樹種」『千代田区 溜池遺跡－衆議院新議員会館整備等事業に伴う調査』東京都埋蔵文化財センター
- 高橋旨象 1992 「木材の保存」『木材の基礎科学』（日本木材加工技術協会関西支部 編）海青社
- 徳川林政史研究所 編 2012 『森林の江戸学』東京堂出版
- 徳川林政史研究所 編 2015 『森林の江戸学II』東京堂出版
- 所 三男 1980 『近世林業史の研究』吉川弘文館
- 仲光克顕 2006 「江戸、日本橋における町屋の様相—町屋遺構の分類と土地利用の変遷を中心として—」『考古学の諸相II』（坂詰秀一先生古稀記念会編）匠出版
- 日本橋一丁目遺跡調査会 編 2003 『日本橋一丁目遺跡』日本橋一丁目遺跡調査会
- 能城修一 1992 「新宿区細工町遺跡から出土した木製品の樹種」『細工町遺跡』新宿区厚生部遺跡調査会
- 能城修一・三村昌史 2003 「新宿区行元寺跡より出土した木製品の樹種」『行元寺跡』新宿歴史博物館
- パリオ・サーヴェイ株式会社 1997 「木製品の用材と製作技法」『千駄ヶ谷五丁目遺跡』東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会
- 平井信二 1996 『木の大本科』朝倉書店



中央区日本橋一丁目遺跡出土木製品の樹種からみた17世紀の江戸の町屋における木材利用（鈴木伸哉）

松葉礼子 1999 「溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸  
城周辺の木材消費」『植生史研究』7巻第2号

吉田伸之 1999 『巨大城下町江戸の分節構造』山川出版社

吉田伸之 2015 『都市 江戸に生きる』シリーズ日本近世史4 岩波書店

Totman, Conrad. 1989. The Green Archipelago, Forestry in Preindustrial Japan. University of California  
Press.

（東京都埋蔵文化財センター・東京都多摩市落合1-14-2）